

69

日本医科大学初代学長 中原徳太郎について

殿崎 正明, 唐沢 信安, 山本 鼎, 幸野 健, 志村 俊郎

日本医科大学 医史学研究会

中原徳太郎は、明治32年に東京帝国大学医科大学を卒業し、明治35年1月から済生学舎で外科学の講師を行っており、明治36年8月30日の済生学舎廃校宣言後石川清忠が設立した私立東京医学校の外科学講師として旧済生学舎の学生救済に当り、明治43年に東京医学校と合併した日本医学校が日本医学専門学校となった明治45年に乞われて外科学講師となり、大正3年9月には教授に就任している。大正5年の学校騒動後大正7年4月には日本医学専門学校校長に就任して学校の再建に尽力する。

建学の精神「克己殉公」の制定 学校騒動から立ち直るために、小此木信六郎理事長、塩田広重理事教務顧問、近藤達児理事学監と相談・協議の結果フーフエランドの内科書の中の「医戒」の項から「自分の為にはなく、他人の為に生きよ」の言葉を「克己殉公」と訳し、校是とした。

文部省指定 卒業と同時に医師資格を得られる文部省指定を受けるために大正7年11月6日学則改正認可願を、大正8年2月7日には「指定申請書」をそれぞれ小此木信六郎名義で文部大臣に提出し、同年8月19日念願の文部省指定を受ける。明治45年7月10日に日本医学専門学校となってから8年の歳月が費やされたことになるが、中原が校長となってから1年4ヵ月の快挙であった。

医学専門学校から医科大学への昇格 大正9年2月に予科(1年制)を設けて5年制の医学専門学校とし、大正11年1月には附属病院に「看護講習所」を設立し、同年4月には理事として東京帝国大学薬理学教授林春雄、東京帝国大学医学部入澤内科学教室の平山金蔵を迎えて人材の補強を行う。同年8月には臨床実習の充実を計るために麹町区飯田町の「財団法人皇典講習所 國學院大學」跡地を購入して附属病院を増設する申請を行うも、大正12年9月1日の関東大震災で建物を消失する。しかしこの逆境の中で中原等は同年12月25日に財団法人日本医科大学への昇格申請を行い、大正13年7月消失した飯田橋病院の跡地に木造2階建ての仮病院を造り開院する。大正14年3月には大学昇格運動の気運が高まり、学生達は「大学昇格期成同盟」を組織し、文部省認可の為に必要となる50万円へ向けての募金を開始し、8百人が各々2百円を供出して16万円が集まり、学校側は9万円を工面して50万円の半分25万円を文部省に供託して大正15年2月25日大学昇格が実現し中原が初代学長に就任した。慶応義塾大学が大正6年4月北里柴三郎を医学部長として医学科予科開設を開設し、大正7年12月の大学令に基づき大正9年医学部となり、東京慈恵会医科大学が大正10年10月に大学に昇格しており、私立の単科医科大学としては2番目の大学となった。

日本医科大学開学祝賀宴 大正15年5月7日同祝賀会が上野精養軒で開催され、若槻礼次郎首相以下千五百人が集まった中で中原学長は「抑も本学は明治中葉から故長谷川泰先生の経営されて居た済生学舎が廃校後、其衣鉢を継いで起った日本医学校、東京医学校等を合併したものである。……大学としての経営は将来にあるのである。今日までの御同情を将来は一層深くせられむことを切望する。私共は何等物質的の力なく、唯諸君の同情によって今日あるを得たのであるが、私の信条たる至誠を以て事に当たれば、将来は必ずや諸君の同情に酬ゆるに足る可き完全なる医科大学となし得ること固く信ずる」と情熱を込めて挨拶を行い、最後に入沢達吉の日本医科大学万歳の三唱が行われた。

まとめ 中原は、済生学舎時代から日本医学校、日本医学専門学校、日本医科大学と大学の歴史をまさに体現して生き、その基礎を築いた人で昭和2年11月17日頸部の蜂窩織炎から敗血症が誘発され、肺炎を併発して帰らぬ人となった。